

## 〔長久手町業務評価票：平成 18 年度業務〕

課係NO・業務NO	-	総合計画	2節4項 廃棄物リサイクル
担当課・係名	環境課	ごみ対策係【問合せ・質問等の先（内線番号）	164番】

業務の名称	ごみ対策に関すること					
(1)根拠法令・条例	廃棄物の処理及び清掃に関する法律・長久手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例・同規則					
(2)当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の 19.2% (係の総業務量を100%とする) 職員延人数：249.4人・日 (臨時雇用者延人数：0人・日)					
(3)事業費 (人件費分を除く)	279,681千円 (平成18年度決算(細目・細々目の実績から抽出・算定する))					
(4)補助率(補助金がある場合のみ記載)	0% (平成18年度実績)					
(5)業務期間	開始した年度	昭和42年度	終了(予定)年度	未定	年度	
(6)業務の概要(簡潔に箇条書きで記載)						
業務目的(達成目標)	「捨てればごみ、分ければ資源」をモットーに資源化を推進し、ごみの減量を図り、3R運動の発信地としてエコハウスを建設する。					
業務が対象とする住民(地域・層)	住民全員が対象					
業務の具体的な実施内容・方法 (平成18年度実績)	エコハウスの建設 雑がみの回収推進 プラスチック製容器包装ごみのPR ケーブルテレビでの放送					
業務の実施結果 (平成18年度実績)	様々な方法を講じてPRした。					
	【業務結果の説明指標】					
		結果の説明指標	17年度	18年度 実績	19年度 目標	将来目標
1		衛生委員会での説明				
2		環境かわら版の全戸回覧	-			
3		ケーブルテレビでの放送				
4		ごみ資源カレンダーの充実				
5		循環型社会推進会議に出席				
業務の成果(業務目的の達成状況) (平成18年度実績)	順調に毎年減少している。					
	【業務成果の説明指標：基本計画準拠】					
		成果の説明指標	17年度 実績	18年度 実績	19年度 目標	将来目標
1		可燃ごみの減量(年間一人当たり)	195	188	181	kg
2						25年度
3						
4						
5						

(7)遂行上の問題点、取組課題（箇条書きで簡潔に記載）
時代とともに「もったいない」感覚が薄くなり、すぐ、捨ててしまう。 人口増により、相対的には、ごみは増える傾向にある。

(8)改善実績（過去3年間の実績）
人口増はあるが、資源化を推進することによって、着実に一人当たりの量は減少している。

(9)業務の評価（自己診断）		
評価基準	評価の視点	五段階評価 (5～1点)
目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	4 点
コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	3 点
業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	3 点
住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	4 点
総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	3 点
他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	3 点
		平均3.3 点

(10)総合評価（課の見解）	
今後の方向 (該当番号に○印)	1. 前年度と同じく、そのまま継続する。 2. 見直して継続（業務の拡大） 3. 見直して継続（業務の縮小） . 見直して継続（方法の改善） 5. 見直して継続（他業務と統合） 6. 廃止する。 7. 休止する。
評価理由	各種方法により、一定の成果は出ている。

(11)今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）
各種団体、組織とも相談し、取組みを理解し働きかける。 各世代層の会があれば、説明し周知活動をする。